

高校魅力化評価システム 概要説明資料 内容編

「地域・社会に開かれた教育」の実現のために

2023年6月1日版

1. 「高校魅力化評価システム」とは 調査の枠組み

「学校の教育活動を生徒の視点から見える化」する
組織診断ツールです

学校の教育活動を2つの側面から数値で見える化します

学習活動

- 学校・地域で生徒がどう学んでいるか？を指標化
明示的なカリキュラム

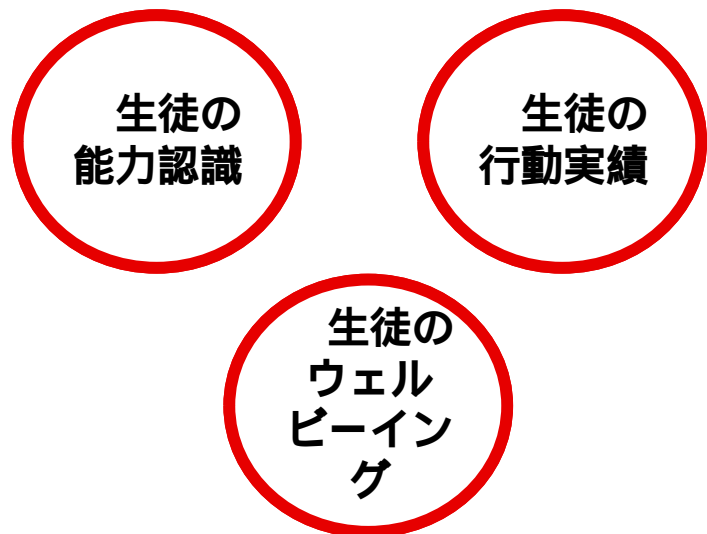
学習環境
(学びの土壌)

- どのような環境の中で学んでいるか？を指標化
隠れたカリキュラム

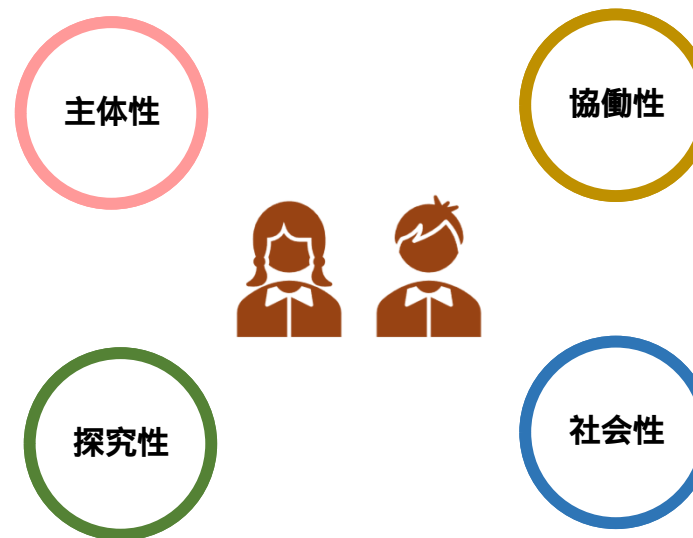
1. 「高校魅力化評価システム」とは 調査の枠組み

「生徒の資質・能力の伸びを見える化」する
組織診断ツールです

3つの側面から



4つの領域から



1. 「高校魅力化評価システム」とは 調査項目

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
学習環境	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
行動実績	主体性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	協働性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	探究性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	社会性に関わる 生徒のここ1カ月の行動
ウェルビーイング	私の現在の幸せ “いま、学ぶための幸せ”	私たちの現在の幸せ “ともに学ぶ幸せ”	私の未来の幸せ “目標に向かい 学び続ける幸せ”	私たちの未来の幸せ “学びを未来に繋ぐ幸せ”

詳しい質問項目については事務局までお尋ねください

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴

学習環境への着目

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
学習環境	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
行動実績	主体性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	協働性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	探究性に関わる 生徒のここ1カ月の行動	社会性に関わる 生徒のここ1カ月の行動
ウェルビーイング	私の現在の幸せ “いま、学ぶための幸せ”	私たちの現在の幸せ “ともに学ぶ幸せ”	私の未来の幸せ “目標に向かい 学び続ける幸せ”	私たちの未来の幸せ “学びを未来に繋ぐ幸せ”

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 学習環境への着目

< 聞き取り調査から実際に得られた、生徒の成長の背景・要因 >



- ・ 色々な人が行動しているのを間近で見えて感化された
- ・ 日常生活の中で多くの人と触れ合う機会があった
- ・ 自分は自分で良くて、他人の夢や行動と同じようにしなくても良いと言ってくれたスタッフの人
- ・ 本気なら全力で応援してくれる大人・地域の人がいる
- ・ 色々なことをしている人を見てチャレンジすることへのハードルが低くなった
- ・ 先生との面談で夢を実現するためにどうすれば良いか明確になった
- ・ OBが地域に連れ出してくれたり、地域の人にあわせてくれたり、手伝いの楽しさを経験させてくれる

生徒の学びを深める学習環境に必要な4つの要素を抽出

安心・安全の
土壌

多様性の
土壌

対話の土壌

開かれた
土壌

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 学習環境への着目

生徒の周囲(学校や地域社会)における、学びにかかわる
人との関係性や、機会、雰囲気の有無について把握します

挑戦の連鎖を生む
「安心・安全の土壌」

- ・失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
- ・自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる

協働を生む
「多様性の土壌」

- ・人と違うことが尊重される雰囲気がある
- ・立場や役割を超えて協働する機会がある

問う・問われる
「対話の土壌」

- ・将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
- ・周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる

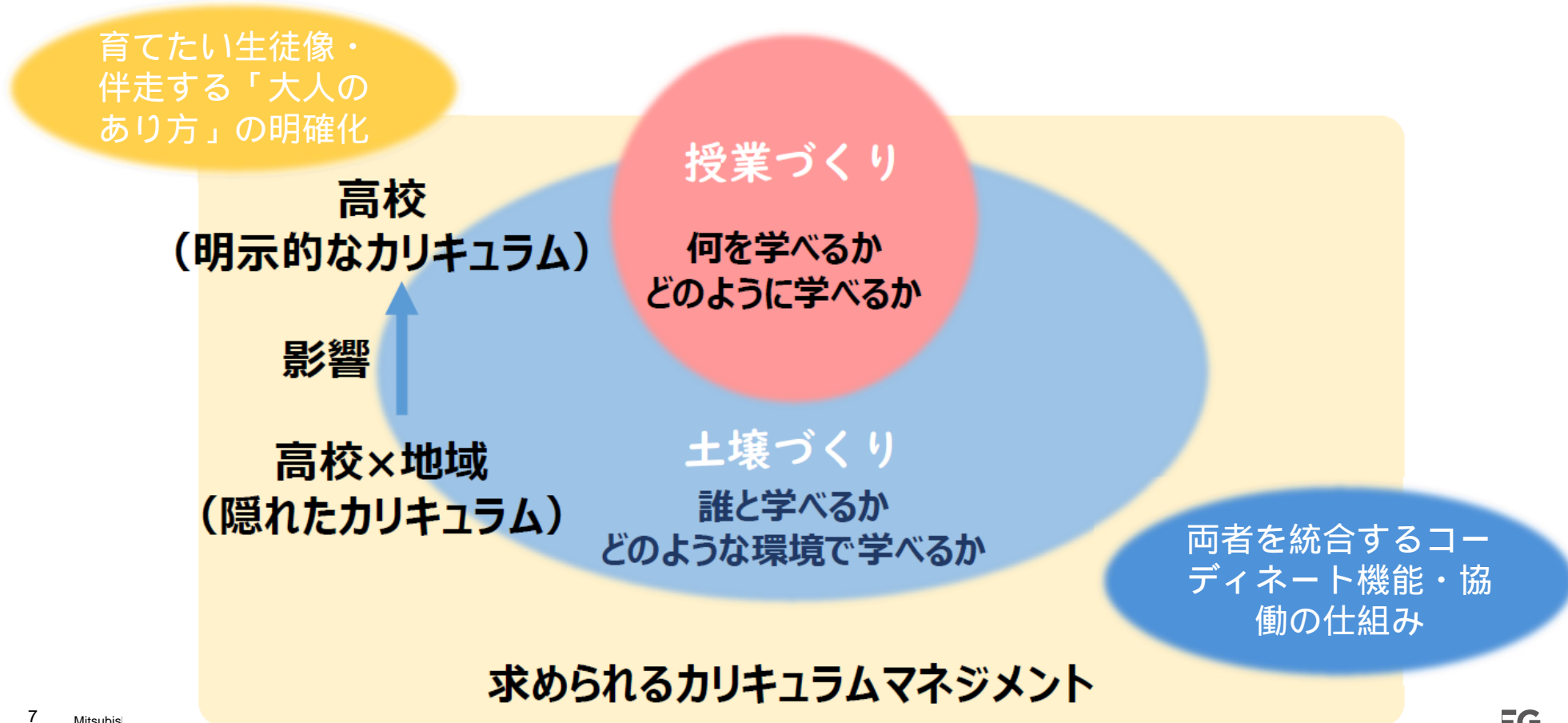
地域や社会に
「開かれた土壌」

- ・興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
- ・地域の人や課題などにじかに触れる機会がある

上記は抜粋です。実際にはさらに多くの質問をご用意しています。

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 学校改善への活用

高校での学びのインプット、アウトプットに関わる多様な指標で、**学校の取組と生徒の変化のつながり**を検討するためのデータをご提供します。



2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 学校改善への活用

島根県教育庁では、2019年から全県立高校で高校魅力化評価システムを導入し、2019年2月に策定した「県立高校魅力化ビジョン」に基づく施策の評価の一部に結果を活用。知事部局との部局横断プロジェクトの企画立案や予算の協議においても、こうした評価結果を共有することで、データに基づいて施策を検討することができている。また、県立高校における「グランドデザイン」の策定プロセスにおいて、教職員による生徒の現状把握、「育てたい生徒像」や教育活動の検討に評価が活用されている。「グランドデザイン」策定後は、各高校が「グランドデザイン」に基づく成果指標を設定し、毎年度取組みを検証することでPDCAを回して、教育活動のさらなる推進を図ろうとしている。

図表 江津工業高校グランドデザイン2022(一部抜粋)

地域産業を担うテクノロジストの育成
技能者（テクニシャン）＋技術者（エンジニア）の要素を持つ＝テクノロジスト （本校の使命：スクール・ミッション）

目指す学校像

- ・ 地域産業を担う人材を育成するための実践的教育を行う工業高校
- ・ 規範意識と社会性を身につけ、積極的に社会に貢献する人材を育成する工業高校
- ・ 生徒自身が自らの成長を実感できる工業高校
- ・ 地域社会から必要とされ、保護者の期待に応えうる工業高校

目指す生徒像

- ・ 自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った実践力を身につけた人
- ・ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動ができる人間力を身につけた人
- ・ KY（危険予知）能力と技術力・判断力を身につけた人

出所) 詳しくは、[学校での「高校魅力化評価システム」活用事例レポート | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング \(murc.jp\)](#)をご覧ください。

2. 「高校魅力化評価システム」の特徴 学校改善への活用

図表 グランドデザインの成果指標の推移(島根県立江津工業高等学校)

1. グランドデザイン(目指す学校像・生徒像)の成果指標

※1) 太字は目指す学校像・生徒像。※2) Qは高校魅力化アンケート番号。※3) 数値は肯定的に回答した生徒の割合(%)

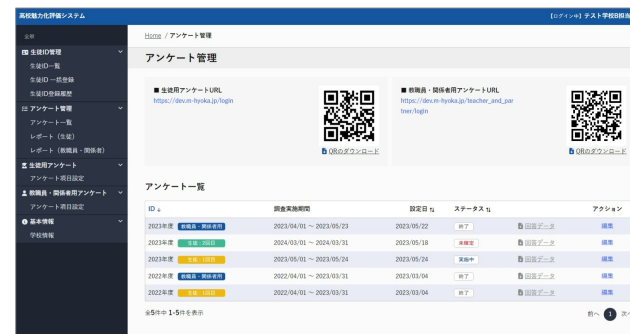
	R3				R4				R5			
	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月
1 地域産業を担う人材を育成するための実践的教育を行う工業高校	35.6		69.1									
Q14.地域の魅力や資源について考える	33.1		72.7									
Q15.地域の課題の解決方法について考える	32.5		75.3									
Q58.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いな がら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	41.1		59.3									
2 規範意識と社会性を身につけ、積極的に社会に貢献する人材を育成する工業高校	46.6		64.7									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	56.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	62.3		76.0									
Q67.地域社会などでボランティア活動に参加した	21.1		43.3									
3 生徒自身が自らの成長を実感できる工業高校	84.8		84.7									
Q64.学校で学習することで、自分ができることやしたいが増えている	84.8		84.7									
4 地域社会から必要とされ、保護者の期待に応えうる工業高校	58.3		75.5									
Q19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.2		84.7									
Q29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	50.3		75.3									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	62.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	56.3		76.0									
Q57.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	49.0		74.7									
Q60.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	55.6		67.3									
5 自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った実践力を身につけた人	76.2		86.0									
Q28.立場や役割を超えて協働する機会がある	61.6		74.7									
Q41.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	90.7		97.3									
6 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動ができる人間力を身につけた人	65.3		76.4									
Q38.目標を設定し、確実に行動することができる	64.9		76.0									
Q51.自分で計画を立てて活動することができる	65.6		76.7									
7 KY(危険予知)能力と技術力・判断力を身につけた人	56.3		69.3									
Q72.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	69.5		67.3									
Q78.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	43.0		71.3									

出所)詳しくは、[学校での「高校魅力化評価システム」活用事例レポート](#)|三菱UFJリサーチ&コンサルティング(murc.jp)をご覧ください。

3. 「高校魅力化評価システム」実施の流れ(概要)

STEP 1 設定

- 本システムお申込後、管理者にアカウントを発行します。
- 管理者アカウントでログインいただき、調査実施のための各種設定を行います。
 - 1回のお申し込みで、同年度内に2回の生徒向けアンケート、1回の教職員・大人向けアンケートを実施できます。
- アンケート調査を実施します。



STEP 2 実施

- 【 生徒向けアンケート】
 - ・原則として回答校の全生徒が対象
 - ・70問程度の選択肢形式のアンケート
 - ・個人ID、パスワード等でログインし、web上で回答
- 【 教職員・大人向け調査】
 - ・回答校の教職員、コーディネーター、その他回答校に関わる地域の大人等（30名程度目安）を対象
 - ・40問程度のアンケート
 - ・学校IDと共通パスワードでログインし、web上で回答



STEP 3 結果の共有

- 調査結果はシステム上で閲覧できます。次のような比較で、各高校のスクールポリシーの進捗状況管理など、PDCAサイクルを支援します。
 - 学年別、学科別集計など
 - 自校と県平均値、全国平均値との比較
 - 生徒の成長の経年変化
- 結果をもとにチームで振り返りを実施し、「次の一手」の検討にお役立てください。

